



日本医療福祉生活協同組合連合会

東日本大震災支援ニュース No.19

(2011年3月24日 19時現在)

被災地の医療福祉生協の状況

○八戸医療生協



職員3名が八戸市新湊地区、白銀町地区の被災された8件の組合員宅のほか、組合員近隣宅も訪問。泥を掃けたところには、石灰をまいていて、まだヘドロの臭いがあたりにたちこめていて、風が吹くたび舞い上がっていた。震災で出たゴミもまだ片付けられてはおらず、道端に野積み状態。宮城、岩手の被害が甚大でそちらの方に意識がいきがちだったが、自分の地域の所（青森県八戸市）も元の生活に戻るにはまだまだかかる。（3月23日、「地震で被災された方々へのお見舞い訪問に参加して」より抜粋）。

○松島医療生協



床上30センチまで津波にのまれた海岸診療所。道路も建物の床も黒いヘドロが15センチくらい埋める。毎日、少しずつ掃除をしても、汚れがつく。組合員さんも雑巾がけに精を出す。総代会については、状況が状況なので遅れて開催してからの届け出で構わない旨、県庁より通達。（3月24日、医療福祉生協連松島医療支援隊の山田氏より入電）

○郡山医療生協

支援物資の一部を、浜通りから避難された方を受け入れている小規模作業所へ提供。

福島医療生協の医療生協わたり病院齋藤紀（おさむ）医師を迎えて、放射線の人体への影響、原子力発電所事故の推移とこれから注意すべきことなど学習会を開催。

新潟を拠点に支援物資の本格的な輸送を開始した医療福祉生協連東日本大震災物資支援センターから第1便が到着。（3月24日、対策本部ニュースNo.9より抜粋）



○福島中央市民医療生協

ながおか医療生協の常務理事ら2名が第2陣として、支援物資を持って到着。支援物資は、鮭、じゃがいも、たまねぎなど新鮮な食材のほか、尿とりパット、水。新潟医療生協と新潟県生協連の協力を得て立ち上げた東日本大震災物資支援センターから、たくさんの物資が到着。風評被害で支援物資が届いていない相馬市（福島市の東）の避難所に、理事長と事務職員が、物資支援と医療支援のため出発。

4月1日、法人で10人目となる新任医師（37歳）が着任へ。主として、せのうえけんこうクリニックで診療。



東日本大震災復興支援ニュース vol.1 発行！「がんばってるよ福島 がんばってるよ東北」。「いま、日本に住む大多数の人が「自分に何ができるのか？」を考え、行動しています。自分を・家族を・親戚を・友人を・そして近所の人を、気遣い・肩を寄せ合い・力を合わせてがんばる私たちの姿をみんなに届け、笑顔と協

同の力で住みよい福島、美しい東北を取り戻しましょう！！」。(3月24日、同ニュースより抜粋)

○福島医療生協



医師会の避難所訪問に、今日も医師・看護師が参加。よく眠れないという訴えが多く、様々なストレスも重なって血圧が高い人が多いとの報告（写真は、避難所を訪問する生協いの診療所所長とスタッフ）。

引き続き200人を超える方々が避難している東高校での炊き出しは、今日も西元副理事長と渡利支部の組合員を中心に実施。支援物資が欲しいとのFaxを頂いた組合員の方に、午前から午後にかけてお届け。(3月

24日、東日本大震災対策ニュースNo.9より抜粋)

○浜通り医療生協

明日25日、藤谷専務理事と野本常務理事が東京の事務所から、ワンボックスカーでA4用紙2500枚×5箱、プリンタ2台、水、マスクを運搬。

支援状況

○医療生協さいたま

3月22日夕方から、浦和民主診療所の所長が看護長と、避難所のさいたまスーパーアリーナを診察してまわる。骨折の疑い、透析の必要な方、受診が必要な方に紹介状、処方箋。入院の例も。また、スーパーアリーナの夜間支援に、医師3、4人が交代で入る。日中は医師が多く支援にはいつているものの、みな17時まで。夜は医師不在に近い状況。診察の結果、急性胃腸炎、喘息、妊婦9名、精神疾患の方がいました。医師会へ協力を申し入れ。

○川崎医療生協

医師3名、保健師1名、介護福祉士1名、薬剤師1名、運転手ボランティア1名が、第5次宮城支援チームとして、24日17時に出発。

19日から福島県いわき市震災被災者がとどろきアリーナに避難。20日午前、組合員ら6人が「カレーライス」の炊き出しに参加。108人が避難されていることを確認。

ストッキング 15 足、オムツ 1 袋、タオル 30 枚、使い捨てマスクなど 5 箱など生活用品を届ける。(3 月 23 日付大震災対策ニュース No. 18)

○東京保健生協

3 月 25 日 22 時、医師 3 名、看護師 5 名、事務 3 名が宮城県塩釜市の病院に向け、出発予定。粉ミルクや紙おむつ、歯ブラシ 1700 本（前回 300 本）を運び込む。(3 月 24 日、東日本大震災支援ニュース No.7、No.8 より抜粋)

○富山医療生協

医師 1 名、看護師 3 名が 3 月 23 日午後 6 時 42 分、宮城県内の病院に到着。翌 24 日今朝 6 時過ぎから災害場所巡りに参加。看護師 3 名は避難所訪問。医師は避難所訪問と夜間の ER 担当。

○浜北医療生協

24 日、第 5 陣として、軽油を積んで福島県に出発。

○乙訓医療生協

24 日、新潟医療生協内の物資支援センターに、組合員から寄せられた品物送付。品目は男女下着、タオル、トイレットペーパー、ティッシュ、生理用品、紙おむつ、ゴミ袋、マスク等。

○尼崎医療生協



22 日に出発した第 4 次支援物資輸送隊（虹のサービスが運行）は、23 日の 0 時に到着。9 時に福島医療生協のスタッフに満載した支援物資を渡す。一番喜ばれたのはガソリン。福島原発事故の影響で、「安全な水」が現地では入手できず、大量のペットボトル入りの水も歓迎された。マスクも現地で調達に難しく、これも喜ばれた。

センター事業団に輸送を依頼した布団やポータブルトイレ、衣服など 1.5 トンの支援物資が宮城県多賀城市と石巻市の被災者に無事届けられた。

○宝塚医療生協

救援物資が沢山集まり、23 日、尼崎医療生協の便で郡山へ届けました。(3 月 24 日電子メール)

○たじま医療生協

緊急度の高いマスク・カイロ・衛生用品・缶詰・カセットコンロなどの支援物資を詰め込んだ大型段ボール 6 個の発送（3 月 16 日）につづき、職員や組合員の皆さん、診療所窓口や事業所利用者の方々から寄せられた募金と法人としての支援募金を合わせて合計 348,000 円を 22 日、第 1 弾として送金。(3 月 24 日、東日本大震災支援ニュース No.2)

○姫路医療生協

姫路市から介護スタッフの派遣依頼あり。姫路市内で幅広く介護事業を展開している姫路医療生協として、行政とも密接に協力していくことを確認。第1次支援隊は今朝全員無事に現地を出発したと報告がありました。本日夜姫路へ帰着予定。(3月24日、支援ニュース3号より抜粋)

○広島中央保健生協

3月27日(日)藤原副理事長が医療生協わたり病院、小名浜生協病院、福島市内の避難所など訪問調査へ。

○広島医療生協

協同診療所社保平和委員会が23日、震災支援のためのカレーバザー。(3月24日、大震災支援ペーパー写真ニュースNo.12臨時号)。

○高知医療生協

24日午後4時前、看護師1名が無事、宮城県内の病院に到着。(3月24日、東日本大地震災害支援ニュースNo.8より抜粋)。

医療福祉生協連は義援金口座を開設しています。

災害義援金口座は次のとおりです。

(専用口座)

三菱東京UFJ銀行(0005)原宿支店(店番627)

普通預金 0041240

日本医療福祉生活協同組合連合会 東日本大震災義援金口

※振込元に生協名を入れてください

寄せられた義援金は地方公共団体、公的機関等を通じて被災した地域への支援に使われます。義援金についてのお問い合わせは担当(椎野)までお願いします。

担当: 江本 (at_e@hew.coop)・丸山 (kj_m@hew.coop)

電話: 03(4334)1580、FAX: 03(4334)1585